

小豆沢病院地域医療連携センター便り

あずき通信 2011年初夏 第4号

私たちは患者様の人権を大切に、命は平等の立場で安心して利用できる病院を目指します

小豆沢病院ホームページ www.kenbun.or.jp

発行／医療法人財団健康文化会

小豆沢（あずさわ）病院地域医療連携センター

発行責任者 事務長：西坂昌美

東京都板橋区小豆沢 1-6-8

電話 03-3968-7506（直通）Fax03-3968-7507

中継ぎは重要！在宅へ帰るための援助をより一層強めていきます

小豆沢病院ではこの4月より亜急性期病床を10床から28床へ増やしました。「亜急性期病床」とは、急性期治療を経過した患者様等に対して、集中したりハビリテーションや在宅復帰を支援するための病床です。亜急性期病床を担当する福本守男医師がその役割をご紹介します。



野球だけでなく医療でも中継ぎが大切なんだと実感する日々です。医療の「中継ぎ」それが亜急性期病床の役割です。具体的には何をするとところでしょうか？

一つ目は、急性期医療の場面で使われた多くの薬の交通整理です。集中した治療が一段落した時期に必要な分だけの薬に絞りこまなければ、そのまま在宅医療や施設に丸投げすることになってしまうからです。二つ目に、リハビリテーションと共に内科管理を経過して「抑え」役の在宅医療へバトンを渡すことです。三つ目に、「痛み」の存在はリハビリテーションの進行を妨げるので、痛がらせずリハビリテーションをしていただく…それも重要な仕事です。

骨折や脳梗塞・肺炎・心不全などの後に生活や運動機能が衰えてしまった場合も入院対象となります。在宅でこんな事でお困りではないですか？「膝が痛い」「腰が痛い」などと言っているうちにいつの間にか歩けなくなってしまった。「痛み」も在宅での運動を妨げ、寝たきりを生む悪循環になります。痛みを抑えて再び歩けるようにすることも亜急性期病床の活用の一つです。在宅や施設での病状や日常生活動作（ADL）の悪化も対象となります。在宅の現場からも是非ご相談ください。

実際に亜急性期病床を利用して在宅へ帰られた佐藤さん（仮名・84歳）をご紹介します。佐藤さんはお一人暮らし。今年初めに脳梗塞で入院、幸いに症状は軽く、ご本人の希望もあり10日間程で退院しましたが、その後、両足の筋力が低下して自宅で転倒を繰り返すようになりました。そのため翌月に再入院。最初は一般病床で全身状態の回復や痛みの軽減を行い、その後、亜急性期病床に移り本格的にリハビリテーションを開始。つたい歩きが安定するようになりました。佐藤さんの同席のもと、医師・看護師・ケアマネージャー・リハビリスタッフ・ヘルパーが一同に会して退院に向けて話し合いを持ちました。後日、看護師とリハビリスタッフが佐藤さんのご自宅を訪問し、家屋の状況を確認。転倒予防でこたつの横にスタンド型の手すりを設置することにしました。手すりの取り付けも終わり、介護保険サービスを利用して自宅へ無事帰られました。



みんなで話し合い(合同カンファレンス)

研修医紹介



この春、小豆沢病院に入職しました^{しんたく}新宅将之です。

生まれも育ちも大阪。離れたところに住むのも働くのも初めてです。研修病院を決めるときに『大阪から出たい』と思い小豆沢病院の採用試験を受験。医師として患者様の生活や健康を守るためにしっかりと勉強していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

東日本大震災被災地支援～小児科 篠田格医師からの報告

4月28日から5月1日までの4日間、医療支援として宮城県石巻周辺に行ってきました。津波による被災地とそれ以外の被災地の落差がとても大きかったと感じました。支援の拠点となった塩釜市にある坂総合病院近くのコンビニエンスストアでは、おにぎりやお弁当が揃っていましたが、津波の被害を受けた海沿いの地域はまだ瓦礫がころがっていて生活の場が奪われたままでした。



石巻市の避難所を訪問し、診察を行いました。避難所で生活している方々はカーテンもない大部屋で寝起きしておりプライバシーがない生活を送っていました。震災発生後から糖尿病のインシュリン注射を中断している方がいました。避難所近くのクリニックは再開していましたが、通院が困難なため行くことができないとのことでした。集団生活のため特に感染症に対する注意が必要ですが、2週間以上も咳が続いている方でも受診を控えていました。震災発生から1ヵ月半たっても避難所での生活はまだ大変であり生活支援が必要な状況でした。



海岸沿い(撮影:篠田医師)

塩釜市にある拠点病院の坂総合病院では当直を行い、子供を含む下痢や嘔吐の患者さんの診察を行いました。

小豆沢病院・健康文化会では全日本民医連の医療チームの一員として、これまでに29人が被災地の医療支援を行いました。全日本民医連からは延べ12,035人が被災地に入り、医療や生活の支援を行っています(5月17日現在)。私たち小豆沢病院はこれからも継続して被災地支援を続けていきたいと思えます。

連携データ：健康文化会の訪問看護における医療管理

健康文化会は小豆沢病院と7つの診療所・小豆沢歯科・介護老人保健施設志村さつき苑・5つの訪問看護ステーションのネットワークで在宅医療・療養を支えています。健康文化会の訪問看護ステーションは医療系の訪問看護に力を入れています。

月平均件数 (2010年度)	小豆沢 (板橋区)	練馬 (練馬区)	赤塚 (練馬区)	桐ヶ丘 (北区)	高島平 (板橋区)	合計
膀胱留置カテーテル	9.3件	9.8件	9.7件	8.4件	6.5件	44件
気管切開	5.3件	2.0件	2.7件	1.2件	2.2件	13件
人工呼吸器	2.0件	1.6件	1.0件	0.8件	2.0件	7件
床ずれ	4.7件	9.1件	4.1件	5.8件	6.0件	30件
経管栄養	16.9件	7.8件	6.0件	7.1件	7.5件	45件
在宅酸素	5.8件	5.8件	2.8件	6.7件	3.9件	25件
人工肛門	2.0件	3.4件	3.4件	3.3件	2.1件	14件
がん	4.0件	5.9件	1.6件	6.2件	2.5件	20件



本多佐和子 相談員

こんにちは。ぼくは新キャラクターのまめぞうです。早速、4月に入職した新しい医療相談員を紹介するよ。社会福祉士の本多佐和子さんです。佐賀県出身で福岡の病院でも相談員をしていたんだよ。みんなよろしくね!

